

第 21 回東北地区高専技術職員研修会鶴岡大会 開催報告

教育研究技術支援センター 技術長 鈴木徹

1. 概要

東北地区高専 6 校が持ち回りで開催している夏の恒例行事である技術職員研修会が 5 年ぶりに本校を会場として開催された。本来は来年（令和 2 年）が担当校であったのだが、東日本地域高専技術職員特別研修会の担当校でもあり、2 つの職員研修会の同時担当校となるのは所管する総務課の業務負担も大きいと言うことで、関係者との協議を経て来年度担当校である秋田高専さんをお願いして 1 年前倒しで担当させていただくことになった。受講者数 28 名であった。

2. 開催日程

令和元年 9 月 3 日（火）～ 4 日（水）

鶴岡高専 1 号館大会議室

< 1 日目 >

9:00～	開講式
9:30～10:45	講演
10:55～13:50	技術課題発表会（昼食休憩あり）
14:00～14:45	ポスターセッション
15:00～17:00	学外施設見学会
18:00～	情報交換会

< 2 日目 >

9:30～11:30	実技研修
11:35～	閉講式

3. 各日程の詳細

3-1. 講演

講演は本校基盤教育グループ准教授の山田充昭先生による「配慮が必要な学生への対応に関して」という題目であった。昨今どこの高専でも対応に心を砕いている要配慮学生に対し、技術職員としてどのように接したら良いのか我々職員も分からないことがあり、この点に

ついてヒントとなるお話しをご紹介いただいた。この題目については、私たち東北地区高専の技術職員の間でも昨今、関心事の 1 つとなっていて、その事情は全国のどの高専でも同じだと思われた。ご後援について盛んな質疑応答が行われた。

3-2. 技術課題発表（口頭発表）

研究報告や実験実習に関する事例報告について、発表 12 分、質疑応答 3 分で行われた。本校からは技術長鈴木が昨今欧米で盛んに行われている学修成果証明のためのデジタルバッジの活用事例の紹介について発表した。

3-3. 技術課題発表（ポスターセッション）

研究報告や実験実習に関する事例についてポスターセッション形式で実施した。本校からは技術第 1 班木村が岩手県の水産物卸業者とタイアップした研究で、音響信号を使って天然岩牡蠣可食部の大きさを非開口で計測するための研究について報告した。

今回の技術課題発表については口頭発表とポスター発表という異なる形式の発表をあえて用意した。その理由は、技術職員が学外で研究発表する機会が増えているが、その発表形式は大会毎に異なり、大体口頭かポスター発表のどちらかである。この研修会に参加する各校の発表者も研究を熟成させて学外で発表することを見据えている人が多いと思われた。そのため、我々はどちらの発表形式でも対応できるようにしておかねばならないと考え、経験する場を提供しようとしたためである。この目論見は他校に好評であった。

3-4. 実技研修

酒田市で工房を構える水引細工師である水引中秀流講師 佐藤 久先生をお招きして水引細工教室として「勝ち虫とんぼ」の製作実技研修を実施した。水引細工は最近メディアでも

取り上げられるなどして一部注目を集めている
工作であるが、講師を探すとなると容易では
ない。隣町の酒田市に講師がおられたのは偶然
で、お願いして来ていただいた。題目は小学生
でもできるレベルのものと聞いていて、職業柄
手先の器用な人が多い技術職員なら問題なか
ろうと思っていたのだが、いざ工作を始めて見
ると聞いていた以上の難易度の高さに参加者
ほぼ全員が悪戦苦闘していたのが印象的であ
った。

4. おわりに

5 年前に一度担当校を経験した職員が全員残
っていたこともあるが、運営が非常にうまく行
ったと思う。開催に向けた準備も人事系の尽力
もあり、いくつか目前にあった問題もクリアで
きて滞りなく執り行うことができた。参加校の
皆様からも非常に高い評価をいただくことが
できた。

ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。



受講者および関係者集合写真